

令和 5 年度 中央区地域包括ケア推進会議 議事録

1. 日時 令和 6 年 2 月 16 日 (金) 13 時～14 時 30 分
2. 場所 あいれふ 7 階 第2研修室
3. 出席者 委員 (14 名)、関係機関 (6 名)、区役所職員 (1 名)、事務局 (7 名)
4. 会議次第

- 1) 開会 会長挨拶、委員紹介
- 2) 会議概要説明
- 3) 議題
 - 【議題1】中央区の高齢者の概況や事業報告
 - 【議題2】令和 4 年度地域ケア会議報告、中央区の課題と取り組み
 - 【議題3】令和 5 年度事業計画及び実施状況
専門部会報告、中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業
 - 【議題 4】意見交換
 - ① 中央区の取り組み方針の見直しについて
 - ② 市レベルで検討が必要と思われること
- 4) 閉会

5. 議事録

【議題1】中央区の高齢者の概況や事業報告

事務局より資料に基づき報告。

質疑応答

(委員) 多職種連携研修会は、コロナ 5 類になって以降はオンラインだけでなく、集合型でもしているか。

(事務局) 今年度は遠方の講師を呼びオンライン開催を 2 回実施した。集合型も 1 回実施する予定。

【議題2】令和 4 年度 地域ケア会議報告

中央区の課題と取り組み方針

事務局より資料に基づき報告。質疑応答なし。

【議題3】令和 5 年度 事業計画および実施状況

専門部会報告

中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業

事務局より資料に基づき報告。質疑応答なし。

【議題4】意見交換

① 中央区の取組み方針の見直しについて

(事務局) 取組み方針の4本柱について、まず健康づくり・介護予防の啓発の場づくりについて意見を聞きたい。

(委員) 理学療法士会では、よかトレ実践ステーション等、公民館等でグループ活動をしている団体へ、年 1 回理学療法士を派遣し、体力測定や講話をしている。運動を続けている人は 1 年前の体力測定結果と比較し維持できていたり、新規参加者がいたり、引き続き必要な取組だと感じている。歩行スピードはあまり落ちていないが、バランスが悪くなっている人が目立つ。開眼片足立ちの測定では、できる方とできない方で極端な差がある。

福浜校区や笹丘校区に設置された健康パークステーションも活用できるとよい。運動の継続や体力の維持の大切さがもっと広がるとよい。よかトレステーションは中央区に 100 カ所以上あるが、理学療法士の体力測定の申込は 10 カ所もない。自主グループ活動が続けられない、公民館等が遠くて行けない等の声も聞いているので、通いやすい場所を増やすことも必要かと感じる。

(事務局) 中央区のよかトレステーションは現在 106 カ所設置。満遍なくとはなっていないので、地域の皆様とも協議しながら設置を進めていきたい。各薬局では、よかトレステーション登録や待ち時間を活用したフレイル予防プロジェクトなどの取組を推進されている。

(委員) 薬局の待ち時間を使って、よかトレDVDを流したりしている。また、現在、薬剤が不足し、混乱している高齢者も多いので、相談時間を持てるようにするのも喫緊の課題で、一緒に進めている。

(事務局) 健康づくり・介護予防の啓発の場づくりについては次年度も継続し、連携しながら推進していきたい。単身者や認知症の方への支援体制の整備について意見を聞きたい。

(委員) 認知症の単身者がどのように暮らしているのか全然見えてこないし、問題も上がってこない。個別支援会議等にあがってきた時には顕在しているが、周囲や本人が、認知症なのかどうか疑問を持ちながら過ごしている時間が長いので、地域がしっかり見守りできる環境づくりが必要。

認知症の人と家族の会では、いろんな集いや相談窓口を設けているので、市民に周知し、ささいなことでも不安を感じながら放置するのではなく、相談に繋ぎ、顕在化する前に支援できる体制につなぐため啓発を行っている。

(事務局) 民生委員・児童委員など、認知症の方の見守りの立場から意見を聞きたい。

(委員) マンション居住者を見守り活動について、マンションの隣の部屋であっても、寄っていくことはできない。毎回エントランスまで降り、オートロックのインターホンを押して訪問する決まりになっている。そのようなマンションの立地条件、生活環境の中で動きづらい面がある。

生活保護受給者もしばしばいるが、土日祝など行政が休みの時にお亡くなりになると、行政機関と連絡がつかず、民生委員・児童委員が葬儀会社とのやりとりをしたりしている。自治会や町内会に加入していない人は、会費を払っていないからと行事等の恩恵が受けられないことがある。

民生委員・児童委員が高齢化し、定年もあるので減少しており、担い手不足の問題がある。若い方は自分たちの生活を守るための労働をしているので、なかなかできない。

(事務局) 困った時にアクセスできる相談窓口を周知する、地域で見守り体制を整えて早めに気づく、そのような地道な地域づくりが必要。

次に、高齢期の緊急時の備えのサポートについて意見を聞きたい。警察署や消防署などは、孤独死の現場に立ち入ることも多いと思う。

(委員) 行方不明や道に迷った高齢者の対応が多くなっている。12月の雪の降る日、高齢者が中央区からいなくなり、幸い命に別状はなかったが他区で倒れているのを発見された事案があった。先ほどの報告で、認知症の人の見守りネットワーク事業の登録数が少ないと感じた。行方不明になった時、警察だけで探すのは非常に困難な場合があるので、ぜひ登録の呼びかけをしてほしい。認知症の人の見守りネットワーク事業について、協力してくれる団体や個人は増えているだろうか。

単身高齢者を自宅へ送り届けた際に、家がひどく汚れている等気になる場合は、行政等へ支援の引継ぎをしている。それは続けていきたい。

(事務局) 認知症の人の見守りネットワーク事業の協力者は徐々に増えているが、啓発は十分でないので、市全体として啓発に力を入れていきたい。

(委員) 早く探して、家族に送り届ける、医療に繋げる等が必要と思うので、そういう活動を引き続きしてほしい。

(委員) 消防署の統計で令和 5 年速報値では、救急は毎年増加傾向で、初めて 10 万件を超えた。その中で搬送者数は約 8 万 5 千人。そのうち高齢者が約 4 万 6 千人。約 54%が高齢者という現状。

福岡市の将来人口推計では、人口のピークは 2040 年。2050 年までに高齢者割合が 30%を超えるとのデータがある。この中で救急の対応をどうしていくか。

今年度、中央区の民生委員・児童委員協議会の中で、パンフレット(救急ガイドブック高齢者施設編)を配布し、救急要請時のポイント、救急隊の引継ぎ要領、救急車の適正利用、#7119の活用等について説明し、消防局や福岡市の現状について情報共有した。来年度も継続したい。

単身高齢者について、最近姿を見ないので家の中で倒れているのではないかと救急要請されることがある。指令の段階で、施錠されており入れないことが分かれば、救急隊に加えて消防隊も一緒に派遣し、状況によって許可をとり、ビルの外側からロープを使って室内に入り、救出している。

高齢者の救急搬送を事故種別で分析すると、約 2 割が一般負傷(転落、転倒、窒息など)。中でも転倒が非常に多く、高齢者が大腿骨頸部などを骨折すると回復が難しい。やはり運動などで体を鍛えることも大切と感じている。

(事務局) 病院と在宅医、医療と介護の多職種連携強化について意見を聞きたい。

(委員) 区の取組として研修会は開催されているが、参加者が少しずつ減っている印象。ソーシャルワーカー協会でも専門職の教育については課題を感じている。コロナ禍で顔を合わせる機会が減り、コロナが開けても対面でやりとりする機会は、元通りに復活できていない。以前はソーシャルワーカー協会で年1~2回は集まって意見交換をする場を設けていたが再開に至っていない。最近は離職者も増えており入れ替わりも多い。電話のみのやりとりでは人となり分らず連携がうまくいきにくい。

(委員) 地域包括ケア推進会議の専門部会で、様々な職種の方とグループワークを行い、見識が広がった。救急隊が対象者宅の様子を見ることによって伝えられることがある等という話を聞いた時に、医療の業界にいと分らなかつたことを知ることができたので、そういった研修や部会などを複数回していただけるとよいと感じた。

中央区では在宅ネットワーク福岡中央主催の研修会を年 3 回開催しているが、医療従事者や在宅支援の事業者の方々等、毎回 150 名ほどが集まっている。今皆様が話されたことなど、伝えたいことがあったら、人数が集まるそのような会で伝えるのも、色んなネットワークを広げることにつながると思うので、伝達していきたい。

(委員) 地域の交流については、コロナ前よりも後の方が、交流を深めなければという意識が高まっているように感じる。実際に各圏域でネットワークづくりの動きも盛んになっているし、公民館の行事に居宅介護支援員や介護事業所も参加したりして、顔の見える関係づくりをして、地域を全員で支えようという流れができています。医療関係者との多職種連携について、中央区は大きな病院も沢山あり恵まれている。訪問診療の医師も多く、手厚い医療が受けられる地域だと思う。非常に多くの医療機関から研修開催のお知らせが来るが、通常業務をこなしながら、全部は参加できない。システムが分からないところを選んで参加したりしているので、参加率が減ってしまうこともあるかも。今後も市をあげての活動を継続していくことで、コロナがあった故にさらに地域連携は深まるのではないかと感じている。

(事務局) コロナ禍で随分交流ができない時期があったが、ピンチをチャンスに変え、前進していけたらと思う。

(委員) 皆様の意見を聞いて大変参考になった。特に「中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業」は素晴らしいと感じた。地域に住んでいる人達を皆で支え合っていくことが非常に大事で、その中で課

題も見えてきた。例えば民生委員・児童委員の話で、隣に住んでいるのに 1 階に降りてインターホンを鳴らす等、面倒に感じる。そういう課題を今後皆で一緒に話し合い解決していけたらと思う。

(事務局) 4 つの柱について意見をいただいたので、事務局でまとめ、方針に盛り込んでいきたい。

最後に、区で解決が困難な市レベルで検討が必要と思われることについて意見を聞きたい。

(委員) 地域で隔たりなく、誰もが公平に安心して支援を求められるような市政づくりをしていきたいと思っているが、自治会、町内会へ入っていない方は、敬老会の配食もお届けできないということもある。それでは地域との関わりが希薄になるが、その隔たりをなくしたい。町内会に入っていようがまいが、地域の一員とし安心して生活できる場としてやっていただきたい。そんな仕組みづくりを広げていければよい。

(事務局) 校区事業を展開していく中で、住民を巻き込むために工夫していること、困難に感じていることはあるか。

(委員) 公民館が遠いという問題もあったので、年 2 回は出前講座で坂の上の方へ出かけていき、そこで一緒に健康づくりの体操をしたり、歩こう会をしてみたりしている。住宅が密集している地区では火事が最も怖いので、皆で連携を取り合い、誰が誰を見守るなど、しっかりと体制を整えたいと考えている。

(事務局) 地域では、衛生連合会や民生委員・児童委員等、様々な地域団体や役員の方々が活躍いただき、皆様を支えている。町内会加入の有無に関わらず隔たりなくしていこうという課題が 1 つ出たが、事務局からも市レベルで検討してもらいたい課題が 1 つある。

(事務局) 昨年度もあげていたが、制度の狭間で色んな支援が滞るという課題がある。公的サービスで賄えない生活支援の充実についても、市レベルで検討してほしい課題としてあげたいと思う。地域レベルでの住民同士の助け合いも大事だが、それだけでは賄えないので、有償ボランティアなど新しい取組の検討がされてもよいのではと感じる。

(委員) 全体を通して、質問や意見はないか。

(委員) 1 つ情報共有したい。警察より金融商品詐欺の手口という資料を配布している。このような手口が県下で発生しており、注意を呼び掛けている。昨年のニセ電話詐欺の被害は、県下で 13 億円を超えている(そのうち中央区は 3 億円)。今年は 1 月末時点で 3 億円を超えている状況。金融商品詐欺により、一人で 2 億円を超える被害に遭った高齢者もいる。これはスマホにこういった表示をされて、そこにアクセスすると、どんどん投資のグループに引き込まれて、最終的に沢山のお金を取られて連絡が取れなくなるという手口。ぜひ皆様の団体でも、こういった手口が流行っているので引掛からないよう防犯指導をしていただきたい。警察にて防犯講話や防犯教室などの出前講座も実施しているので、必要時はいつでも声かけしてほしい。

【お知らせ】

(事務局) 「知ろう・防ごう高齢者虐待」のパンフレット、休日夜間高齢者虐待通報ダイヤルの設置について説明。「福岡市認知症フレンドリーセンター」開設について説明。

(委員) 認知症の人と家族の会福岡県支部のパンフレット、会報(たんぽぽ、ぼーればーれ)の紹介。

介護の集いは、会員に関係なく、認知症について悩んでいる本人と家族が集う場として毎月開催している。あまやどりの会は若年性認知症の本人と家族を中心に偶数月に開催、男性介護者の集いは奇数月に開催している。集いに参加することで随分気持ちが変わり、前向きに頑張っている方もいる。

相談窓口として、介護相談も行っている。このような情報を身近な方にお伝えいただければと思う。

4) 閉会